

令和元年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

施設名称	中原区第2グループ(住吉・井田)	評価対象年度	令和元年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住 所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	H30		R1		H30		R1	
	1 住吉こども文化センター ①年間延べ利用者数	29,592人	27,850人	②年間延べ利用団体数	156団体	156団体	156団体	156団体
2 住吉小学校わくわくプラザ ①登録者数	246人	247人	②年間延べ利用者数	16,417人	19,111人			
3 東住吉小学校わくわくプラザ ①登録者数	312人	271人	②年間延べ利用者数	33,221人	17,438人			
4 今井小学校わくわくプラザ ①登録者数	479人	415人	②年間延べ利用者数	30,344人	27,945人			
1 井田こども文化センター ①年間延べ利用者数	36,905人	33,163人	②年間延べ利用団体数	164団体	141団体			
2 井田小学校わくわくプラザ ①登録者数	416人	468人	②年間延べ利用者数	28,895人	29,955人			
3 下小田小学校わくわくプラザ ①登録者数	487人	501人	②年間延べ利用者数	24,227人	25,631人			
収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 108,506,993 補償金 1,273,606 合計 109,780,599 2 支出 人件費 95,227,730 管理費 8,195,046 事務経費 5,016,379 その他経費 5,577,072 合計 114,016,227 3 差引 -4,235,628							
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。							

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	3	6
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・中原第1、2グループ合同事業として、「川崎市立橋高等学校吹奏楽部によるコンサート」を実施し、近隣の児童と高校生との交流や、児童にとっては普段はなじみのない楽器に触れる機会を提供した。 ・住吉こども文化センターでは、運営協議会共催で「すみよしこども文化センター祭」を開催し、広報を積極的に行うことで、幼児から成人まで、昨年度から2割増の1,694名の参加があった。地域住民や幼児サークル、子どもボランティアが開催企画等に携わることで、世代を越えた地域交流を図った。また、成人向けの「生ごみリサイクル」や乳幼児世帯向けの「パパとベビーマッサージ」等、新たな事業に積極的に取り組んだ。 ・井田こども文化センターでは、新規に成人世帯向けの「わくわくセミナー」を開催し、子育て診断士による、子どもの才能発見やライフプラン術等の講座を通して、新たな世帯へのアプローチに取り組んだ。また、毎月の子どもの成長を知り、より深い親子関係を構築することを目的とした「ひよこ測定会」では、季節感を感じられる手遊びを取り入れること等により、参加しやすい雰囲気づくりに取り組み、参加者の増加に繋がっている。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ及びセルフモニタリング	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	4	8
		利用者ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		セルフモニタリングについて、適切に実施しているか。			
		利用者ニーズの把握、セルフモニタリングの実施の結果、業務改善につながっているか。			
	苦情等への対応	利用者からの苦情や指摘事項、意見への対応などが適切に行われているか。	5	3	3
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	5	5
学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体、地域住民、施設等との連携がなされているか。	10	3	6	
施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4	
わくわくプラザの充実	・①わくわくプラザ多世代交流促進事業、②学習タイム、③わくわくプラザメール配信サービス、④「地域の寺子屋事業」との連携(実施していないわくわくプラザについては、実施に向けた検討・調整等)について取り組み、わくわくプラザ事業の充実を図っているか。	5	3	3	
(評価の理由) 利用者ニーズ及びセルフモニタリングについて、意見箱の活用や利用者アンケート、子ども運営会議等を通じて把握に努め、購入図書を選定等に反映している。また、子ども運営会議での意見を基に、ドッジボール大会や卓球大会を実施したほか、保護者からの要望に応え、昼食行事やおやつ行事を複数回実施する等、利用者意見を反映することで、行事参加者の増加に繋げている。また、法人作成様式を用いセルフモニタリングを実施、職員で結果を共有し運営の振り返りに役立っている。 ・苦情等への対応について、苦情処理の体制・手順について整備され、相談窓口について利用者へ周知されている。結果として、大きな苦情事案はなかった。 ・特別な配慮を要する児童への対応について、個別連絡ノートによる保護者との情報共有を行いつつ、小学校や児童相談所等と適切に連携している。また、「特別な支援を必要とする児童への対応研修」や「児童対応研修」を実施し、職員間での共通理解及びスキル向上を図っている。グループ内のわくわくプラザでは、配慮が必要な子どもに対応するため、担当医師から症状の見分け方や対処方法について指導を受け、職員間で共有することで、症状に対する備えがされている。 ・学校及び行政機関との連携について、事業を推進する上で、学校及び行政機関・地域団体等と連携した取組がされている。井田こども文化センターでは、中原警察署交通課と連携して「交通安全教室」を行い、道路歩行時や自転車走行時等、子どもの日頃からの安全意識の向上を図った。 ・施設・事業の広報について、新たな取組として地域向けのこども文化センターだよりを発行する(ほか、ホームページやおたより等多様な媒体を用いて積極的な広報を行っており、特に、住吉こども文化センターでは、初めての来館者を対象に、手のひらサイズのリーフレットや乳幼児たより「あぶる新聞」を配布し、利用方法を丁寧に説明することにより、来館人数や行事参加者の増加に取り組んでいる。 ・わくわくプラザの充実については、多世代交流促進事業を実施し、多世代・地域交流が図られているほか、学習タイムの実施、適時適切なメール配信、地域の寺子屋の連携など、わくわくプラザ事業の充実に取り組んでいる。					

組織管理体制	子ども文化センターにおける適正な人員配置	・「仕様書」において定める職員配置の最低基準が遵守されているか。⇒①館長1名配置、②スタッフリーダー2名以上配置、③館長とスタッフリーダーの勤務を割り振らない日が重ならないように配置、④利用時間を通じて常勤職員1名以上配置⑤常勤職員配置1名の場合パートナーを配置、⑥12時30分から18時まで常勤職員2名以上配置(常勤職員を配置できない場合、常勤職員1名につき、パートナー2名の配置) 「川崎市契約条例」が遵守されているか。	5	3	3
	わくわくプラザにおける適正な人員配置	・「仕様書」において定める職員配置の最低基準が遵守されているか。⇒①長期休業日等の開室時間の延長対応、②放課後児童健全育成事業の対象児童以外の利用児童概ね20名につき、チーフサポーター1名以上配置、③参加児童数の多い時間帯に学校の特別教室等を使用して、複数箇所に分かれて事業を実施、④わくわくプラザ事業に、月～金の9:30から18:00まで常勤職員を配置 「川崎市契約条例」が遵守されているか。	5	3	3
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。 職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。	10	4	8
	個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。 (評価の理由) ・子ども文化センターの適正な人員配置については仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。 ・わくわくプラザの適正な人員配置については仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。 ・職員の研修体制については、職員が市の研修を受講するとともに分野ごとの法人としての研修が行われている。予め研修計画を立てた上で館長主導で各職員の研修受講の促し及び管理を行っている。また、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員が報告しているほか、研修資料やレポートをファイル等に一元化し、職員が閲覧できる等、知識を共有している。 ・個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかった。	5	3	3
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備(AEDを含む)の保守・点検を適切に行っているか。 建築物定期点検及び建築設備定期点検の実施が適切に行われているか。 備品等の管理が適切になされているか。	5	4	4
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。 事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。 事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。 施設の防犯対策に工夫がなされているか。 災害発生時に備えた対応が図られているか。 災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。	10	4	8
	(評価の理由) ・施設・設備の保守管理については、子ども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、修繕・補修が必要な場合は本部組織を中心に各施設の修繕要望から優先順位を考慮し、適宜補修工事等を実施している。住吉子ども文化センターでは、玄関タイルの補修、東住吉小学校わくわくプラザでは、転落防止用の柵設置等を行い、安全な施設環境づくりに努めている。 ・利用者の安全確保について、法人作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行うとともに、各事例を館長会議で共有し、各館で事例検討会などを開催して議論を重ねることで、職員の意識向上を図っている。特に、井田子ども文化センターでは、衛生管理に係る研修を行うことで職員のスキルアップを図り、管轄わくわくプラザでは「怪我・応急手当研修」を実施する等、利用者の安全を確保するための体制が整っている。 ・防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、災害備蓄品の常備や消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。また、子ども文化センターでは、「こ文DEお泊り会～防災について考えよう～」を実施し、段ボールイレ作り体験や災害時の備えの確認を行ったほか、防災研修を実施し、職員の意識付けを行う等、防災対策に積極的に取り組んでいる。				
	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。 効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。 支出に見合う効果が効果を得られており、サービス水準も確保されているか。	5	3	3
	(評価の理由) ・適正な金銭管理・会計手続について、法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされている。 ・受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。				

4. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	B
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

子ども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に長年に渡り携わってきた経験を活かし、安定した施設運営を実施している、市内20グループの指定管理を行うスケールメリットを活かし、全グループ合同行事、区合同行事等に加え、各館独自の事業も行き、豊富な行事を行った。特に、井田小学校わくわくプラザにおいて、特別な配慮を必要とする児童に対応するための専門的な知識をスタッフ全員で共有するとともに、発作等を想定した検証の実施等による備えができていることは、高く評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、事業推進にあたっては、利用ニーズを的確に捉えた新たな創意工夫を行うほか、多世代交流をはじめとした地域交流に資する取組を積極的に行うことで、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。また、新型コロナウイルスの感染予防のための「新しい生活様式」を踏まえた子ども文化センター及びわくわくプラザの運営に取り組むこと。